



明大生の社会的関係と幸福度

研究意義

明大生の持つ具体的な社会的関係と幸福度の度合いの関係性を明らかにする。

発表のアウトライン

1. 研究目的
2. 調査における前提確認
3. 先行研究
4. 仮説
5. 調査方法と内容
6. 分析結果
7. 考察
8. 参考文献



ごみを削減する最適な方法

畑農ゼミ 2年1班

発表のアウトライン

1. 研究目的
2. 現状分析
3. 分析方法
4. 分析結果
5. 考察・今後の課題



都道府県ごとに算出されている、このデータに注目して分析を進める。平成 23～29 年度の順位の推移をみると、多少の変化はあるものの、上位と下位の顔ぶれには、ほとんど変化がない。

このことから、「1人1日あたりごみ排出量」が多い都道府県と少ない都道府県には、何かしらの共通点があるのではないかと考えた。

したがって、「1人1日あたりごみ排出量」を説明変数に設定し、ごみの排出量に影響を及ぼしていそうな、被説明変数との相関関係を調べた。

結果としては、あまり強い相関関係をみつけることができなかった。その中でも、比較的強い相関がみられたのは、大規模小売店舗数や最低賃金だった。これをふまえて、今後は変数の設定を工夫するとともに、重回帰分析を行ってみたい。

発表の意義

身近でありながら、なかなか解決に至っていないごみ問題。効果的な対策を講じるには、ごみの排出量に影響を及ぼしている要因を発見することが必要だと考えた。

発表のあらすじ

環境省は、ごみ削減の目標を掲げてはいるものの、具体的な政策については言及していない。そこで注目したのが、「1人1日あたりごみ排出量」だ。

$$\begin{aligned} & \text{「1人1日あたりごみ排出量」} \\ & = \text{ごみの総排出量} \div \text{人口} \div 365 \end{aligned}$$



山本雄一郎ゼミ インスタグラム班

インスタグラム マーケティング戦略

—日本企業の視点から—

インスタグラムマーケティングを日本企業の
視点から分析し、成長性や課題を考える

千田ゼミ ナール 昇降装置

テーマ：
エスカレータが
利用者に与える
効用

アウトライン：
シミュレーションから
我々がエスカレータか
ら享受している便益を
調査する。



研究の方法：
階段とエスカレータを
使用した際に発生する
コストを貨幣価値に変
換しその差をエスカ
レータの効用とする。

研究の意義：
属性や行動の種類に
より異なるエスカ
レータの効用を数値
化する。

